

生育状況、環境に応じた  
水管理・中間施肥で強い稲姿に



☀️ 気象情報 (新潟地方気象台 6月13日発表)

平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、低い確率50%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、低い確率50%です。2週目は、低い確率50%です

1週目 : 6月15日(土) ~ 6月21日(金)

2週目 : 6月22日(土) ~ 6月28日(金)

## 1. 特裁米コシヒカリ生育調査結果(6月10日現在)

田植日(5か所平均): 5月9日

項目	本年値	前年比	指標値比・差	※調査について
草丈(cm)	30.3	101.0%	116.5% (長い)	【草丈等数値】 北越後管内定点調査ほ5か所平均値 【指標比・差】 5月10日以降の適期移植の理想生育との比較
茎数(本/株)	14.2	112.3%	115.5% (多い)	
葉数	6.5	+0.0葉	-0.2葉 (平年並み)	
SPAD	34.8	93.5%	99.4% (平年並み)	

6月初旬までの高温多照により、生育の進みは早く、分けつ発生も旺盛です。

地水温の上昇により、湛水状態が続いたほ場ではワキの発生で根の発育が阻害され生育が停滞しているほ場が散見されます。湛水中であっても夜間落水、水更新など間断かん水で根に酸素を供給しましょう。

## 2. 中干し後～幼穂形成期の水管理

中干しは遅くとも出穂の1ヶ月前までには終了しましょう。

中干し終了後は、うわ根の発生促進や根の健全化及び地耐力の維持に努める必要があるため浅水の間断かん水※1や飽水管理※2を実施しその後徐々に湛水管理へ移行しましょう。

中干し終了直後の水管理は酸素と水の供給を交互に繰り返し、根の活力を維持します。この時期は地表に近い根が細く枝別れして綿毛のようなうわ根が発達します。間断かん水によりうわ根をしっかりと張らせることにより養分などを盛んに吸収できるようにし、出穂以降の登熟や下葉の枯れ上がり防止、倒伏防止につながります。

(急激な灌水は根の酸素不足による根腐れや下位葉の枯れ上がりが生じる原因となる可能性があります。)

**カドミウム吸収抑制対策として出穂前後25日間は湛水管理を実施しましょう。**

### 主要早生品種の湛水開始日

5月10日植え

品種名	出穂期(平年値)	湛水開始時期
こしいぶき	7月29日	7月4日
ゆきん子舞	7月26日	7月1日
ひとめぼれ	7月30日	7月5日
わたぼうし	7月26日	7月1日
こがねもち	8月2日	7月8日
五百万石	7月25日	6月30日

5月連休植え

(平年値はH20~H29過去10年間の平均値)

品種名	出穂期(平年値)	湛水開始時期
こしいぶき	7月27日	7月2日
ゆきん子舞	7月25日	6月30日
ひとめぼれ	7月28日	7月3日
わたぼうし	7月24日	6月29日
こがねもち	8月1日	7月7日
五百万石	7月23日	6月28日

### 次回営農情報No.8 より出穂予想を掲載致します。

新潟県作物研究センターの情報によりますと県平均でコシヒカリは前年並みが予想されております。(6/14現在)

※1 間断かん水: 湛水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す。

※2 飽水管理: 水尻は止水し、自然減水で田面の水がなくなり、溝や足跡の底に水が溜まっている箇所が散見される状態になったらかん水する。

### 3. 中間追肥

ケイ酸は全吸収量の9割が水稻生育の後半の幼穂形成期以降に吸収されます。中間追肥の大きな目的は、稲の体を強くするとともに根の働きを良くし、穂肥のやれる稲姿にすることですので、ケイ酸やカリを中心に積極的に散布しましょう。



施用時期：6月下旬（出穂の40日前頃）～

#### 【期待できる効果】

- ①光合成の促進、②根の活力向上、③受光態勢の改善、④耐倒伏性の向上、⑤耐病虫性の向上、⑥異常気象時の品質低下軽減

	品名	容量	特性
中間追肥	けい酸加里プレミアム34	20kg	茎が丈夫になり倒伏軽減になる。収量・品質向上 【出穂40日前頃 20kg/10a】
	マルチサポート1号	20kg	登塾を良好にし、食味向上が期待できる 【出穂40日前頃 20kg/10a】
	ファイトアップ	500g	根の充実で倒伏軽減・品質・登塾の向上 ※投込み剤 【出穂40日前頃 500g/10a】
	スーパーシリカ・プレミアム	20kg	倒伏軽減・高温障害の低減が期待できる 【出穂40日前頃 20kg/10a】
	ウォーターシリカ	15kg	倒伏軽減・登塾・品質の向上 ※水口流入可能 【出穂30日前頃 15kg/10a】
	K S K 28	14kg	液体ケイ加里肥料 幼穂形成期以降に1.4kg/10a 水口施用

### 4. 病虫害防除

#### 〈いもち病〉

・現在管内でいもち病の発生は確認されておりません。

新潟県病虫害防除所の予察情報でも、県内の発生量は「やや少ない」発生程度は「少発生」となっております。

但し今後の気象条件によっては発生の可能性もありますので、発病がみられたら一斉防除期間を待たず防除しましょう。

未だに補植苗が散見されますので、速やかに撤去してください。

地域一斉防除計画に基づき防除を徹底しましょう。

#### 〈斑点米防止対策カメムシ〉

**カメムシの住処を減らすため草刈りを徹底しましょう。**

**第2回草刈推進重点期間は6月22日(土)～7月1日(月)です。**



アカヒゲ



アカスジ



オオトゲ



ホソハリ